

# 知事記者会見の概要

日 時：令和4年3月23日(水) 10:00～10:40

場 所：502会議室

出席記者：14名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問に知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 代表質問

- (1) ロシアのウクライナ侵攻への対応について

### フリー質問

- (1) 観光業界への支援について
- (2) 電力需給ひっ迫への対応について
- (3) 果樹王国情報発信の拠点施設整備について
- (4) 特命補佐について

<幹事社：山新・時事・SAY>

## ☆報告事項

### 知事

皆さん、おはようございます。まず、新型コロナについて申し上げます。本県では、先週まで、一日の新規感染者数が 200 人を超えることが多く、感染の高止まりが懸念されたところでありました。ですが、今週の月曜日には、57 日ぶりに二桁となりました。81 人でありました。翌、火曜日にもですね、69 人となりまして減少したところでありました。これもひとえに、県民の皆様、事業者の皆様、多くの関係者の皆様のご努力、ご尽力の賜物と思っております。心から感謝を申し上げます。

全国でも（新規感染者数は）減少傾向にありまして、18 都道府県に適用されていたまん延防止等重点措置も、（3 月）21 日で全て解除となりました。

一方で、これから春を迎え、帰省や異動、進学、就職などで移動や会食の機会が多くなるシーズンを迎えます。

県民の皆様には、人の動きが活発になるこの時期こそ、気を引き締めて、不織布マスクの着用やこまめな手洗い、消毒、密閉・密集・密接の全てを避けるゼロ密、換気の励行など、基本的な感染防止対策の徹底を改めてお願いいたします。

また、移動の際には、事前・事後の PCR 検査の活用など、「うつさない」「うつらない」の行動を徹底してください。

それから、ワクチン接種が感染防止対策の重要な要となりますので、ご自身のため、大切な方々を守るためにも、出来るだけ早く、3 回目の接種を受けてくださるようお願いいたします。まだ 1 回も接種していない、いわゆる未接種の方もですね、これからでも大丈夫でありますので、お考えいただきたいと思います。また、5 歳から 11 歳のお子さんのワクチン接種につきましても、正しい情報をもとにご検討くださるようお願いいたします。

次に、地震について申し上げます。先週の 3 月 16 日 23 時 36 分頃に、福島県沖を震源とするマグニチュード 7.4 の地震があり、宮城県と福島県で最大震度 6 強を観測しております。

本県でも、中山町で震度 5 強、上山市や天童市など 10 の市と町で震度 5 弱、山形市や寒河江市など 24 の市町村で震度 4 を観測いたしました。

県内の被害状況ですが、3 月 22 日 10 時現在で、人的被害が 4 名となっております。被害に遭われた方の一日も早いご回復をお祈りいたします。また、建物被害が住家 2 棟、非住家 6 棟となっており、公共施設や文教施設などにおいても被害が確認されておりますが、現在のところ、ほかに大きな被害の報告はありません。

また、東北新幹線が脱線したことにより、山形新幹線につきましては、福島以南で運転見合わせとなっております。郡山～福島間が 4 月 2 日頃に運転再開される見通しですが、1 日も早い東京直通運転の再開を期待しております。

なお、昨日 3 月 22 日、福島県から総務省を通して、福島県相馬市への応援職員の派遣依頼がありました。業務内容は、住家への被害認定調査業務であります。派遣期間は 3 月 28

日から4月2日までの6日間、派遣人数は延べ72名ということで要請を受けております。

県としましては、各市町村の協力を得ながら、県職員と市町村職員の合同チームを派遣する予定としております。改めて、被害に遭われた方にお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を願っております。私からは以上です。

#### ☆代表質問

##### 記者

おはようございます。幹事社を代表して山形新聞、田中です。私から1点質問させていただきます。ロシアによるウクライナ侵攻に関する山形県への影響と対応です。まず、山形県から以前ですね、酒田港経由で例えば啓翁桜のロシアへの輸出であるとか、山形県はロシアに向けても農林水産物の輸出拡大に向けた動きを取られております。今般の経済制裁に関して、山形県の海外戦略、輸出とかですね、そういうところに関して何か影響が出ているのか、もしくは今後、予想されるものがあるのかを教えてください。併せて、山形県としてウクライナから国外へ避難する、逃れる方々の避難受け入れの方針を2月定例会で示されております。知事も県議会2月定例会を通じて、幾度かウクライナの国旗を象徴する青と黄色の服を着られて、ウクライナへの思いを示されておられました。山形県として、避難受け入れ、さらに言えば庁内調整を進めているという話もありましたので、新たな支援、何かご検討のものがあれば教えてください。

##### 知事

はい、わかりました。まず、経済制裁に伴う本県への影響について申し上げます。世界的な情勢から申し上げますと、ロシア周辺の情勢悪化に加え、貿易決済や輸出入の制限といった経済制裁の影響もあり、原油価格の高騰や物流の停滞といった影響が生じております。

本県への影響につきましては、例えば、産業分野では、影響が長期化した場合、半導体製造用ガスや希少金属の価格が高騰して、入手困難となることが懸念されます。そのほか、ロシアとの取引や輸出などを行っている企業等への影響が懸念されるところであります。

また、農林水産業では、燃油を使用する施設園芸農家への影響や、漁船の操業に係るコストの増などが懸念されております。また、両国の主要輸出穀物の小麦、トウモロコシの国際市場が高値で推移し、さらに上昇基調にあることから、この先の影響が懸念されているところです。

なお、ロシアへの啓翁桜の輸出ですけれども、侵攻前の1月16日から始まり、2月20までの間に7回行われまして、1,350本が輸出されておりますが、今後、ロシア向けの輸出予定はないところでございます。

さらに、学術分野におきまして、山形大学とウクライナの研究者との共同研究や人的交流にも影響が出ているようであります。

いずれにしましても、今後の本県への影響につきましては、注意深く見てまいりたいと考えております。

次に、避難者に対する新たな支援・対応の検討について申し上げます。ウクライナから避難される方々への支援・対応につきましては、3月15日、出入国在留管理庁において、支援内容を把握するホームページを開設したことから、翌16日には、山形県から受入れの意向を伝え、県営住宅の用意がある旨を登録したところであります。

また、17日には、県庁内に私をトップとする、関係部の次長で構成するタスクフォースを立ち上げました。

今後は、事務的な対応が必要になってきますので、構成メンバーを実務者レベルに変えて、関係省庁における情報収集を行いながら、引き続き検討してまいりたいと思います

今後示される政府の方針を踏まえながら、刻々と変化する情勢に対応できるよう、市町村や関係団体、企業等とも密に情報交換を行い、人道的な観点から受入れ支援を行ってまいります。

なお、ウクライナ人道危機救援金についてであります。県では3月7日から5月31日までの期間、県庁ロビー及び各総合支庁に募金箱を設置して、救援金の受付を行っております。既に多くの県民の皆様方からご協力をいただいておりますが、引き続きよろしく願いいたします。

#### 記者

ありがとうございます。先般、3月15日（実際は3月16日）でしたか、県議会の議会運営委員会です。山形県として県営住宅の空き状況、306戸でしたか、空いている、そこを中心にとということでしたけれども、例えば県営住宅以外への受け入れの支援施設の確保であるとかですね、その後検討が進んでいるものというのは何かあるのでしょうか。

#### 知事

はい、タスクフォースを立ち上げてですね、いろいろと検討しているところでありますけれども、人道的な観点から、例えばウクライナから避難された方々に対して本県としてどんな支援ができるのか、情報共有や検討を行っております。例えば相談窓口ですとか、一時滞在、住まい、暮らしにおける支援策について、協議を行っているところであります。

まだ政府から受け入れの具体的な方針が示されていない段階でありますので、今後ですね、本県に対し要請があった場合、調整をして、政府の方針に沿って、できる限りの支援を行ってまいりたいというふうに考えているところであります。

窓口はですね、きめ細かなサポート体制を構築するためにも、県庁や相談窓口を担う国際交流協会というのがありますけれども、そこが窓口になるということになります。国際交流協会、山形市内にございますので、山形市内の県営住宅をですね、現在20戸程度確保

しております。状況に応じて市町村や県内企業等との支援策とも合わせながら、拡大を図ってまいりたいというふうに思っています。

市町村とも情報共有して、連携していきたいと思っておりますけれども、今のところ、南陽市さん、山形市さんからご協力いただけるということでありますので、国際交流協会が所在する山形市内の県営住宅を確保しているというところであります。

記者

ありがとうございます。私から最後にですね、2月定例会期間中、私の記憶だと4回ほどですね、知事が青と黄色の服を着られてですね、議会もしくは対外的な会合に臨まれておりました。改めてどのような思いでですね、青と黄色の服を着られて臨まれたのかを教えてくださいいただければと思います。

知事

はい。本当に県民の皆さん、全世界の皆さんが震撼したというふうに思います。本当に衝撃的でありました。ロシアによるウクライナ侵攻というのは、明らかに国際法違反だというふうに思っているところです。本当に、国際社会が一致団結して一日も早く侵攻を止めてほしいというふうに思っていたところでありますけれども、なかなか見えないなというふうにも思っております。

私としましては、本当に、避難せざるを得ないウクライナの方々の、連日報道されるあの状況、光景を見ておりましたですね、本当に胸が張り裂けそうな思いになりました。ウクライナの国旗の色が青と黄色で、これは青空の青とそれから、麦畑が熟した実った時の黄色というふうに聞いておりますので、青と黄色、本当に平和な穀倉地帯というイメージを持っておりますけれども、そこがもう本当に戦場と化しているわけでありまして、一日も早い平和が取り戻されることを心から願って、私としても本当に、青いジャケットは1個しかないですし、黄色いインナーをですね、ちょっと似たような色を探したりして、そのような平和を願って、青と黄色という服装で何回か議会にも出席させていただいたところでございます。

☆フリー質問

記者

NHK、金敷です。よろしく申し上げます。

知事、冒頭、コロナの件と地震の件とお話がありました。本県でもこの週末でクラスター対策の期間を一応終えまして、知事おっしゃった通りほかの県のまん防も解除になりました。こういう春の時期、おっしゃっていた通り、本来であれば観光客とか来てもおかしくない時期ですが、地震の影響で新幹線未だ止まったままです。この週末の様子、知事どうご覧になられたか。今後どう期待するか。まずその2点をお伺いさせていただきます。

知事

はい。週末の様子でありますけれども、街へ行った方のお話を聞いたりしますと、結構人出があったということは聞いております。

それから、観光のほうはですね、これから観光の担当のほうから聞いてみたいと思っておりますけれども、漏れ聞こえてくるのは、案外、人が入っていたというような、ホテルでありましたり、あと温泉でありましたり、「案外、人がいました」と。満館だったとか満室だったとかいうのも、2、3聞いているところであります。ですから、人の移動は結構多かったのではないかなというふうに受け止めとしては受け止めておりますけれども、データのなところはこれから担当部から聞いてみたいというふうに思っています。

街を見てもですね、帰省している人の方が多いのかなと思いますけれども、人通りはある程度出ているなという気がいたします。ですけれども、見ておりますと皆さんマスクもしっかりしておられますので、感染防止対策をしっかりとしながら、日常に近い生活を取り戻されているのかなというふうに思っています。

1年前ですとですね、「新しい生活」というような言葉がありましたけれども、2年前になりますか、それがもう定着しつつあるのかなというふうにも思っているところです。あとは、やはりクラスターというものが起きないように、それから重症化しないように、ワクチン接種を加速するとかですね。あと、もしくは重症化した場合には医療提供というところ、医療現場をしっかりと確保しておくというようなことが大事であるというふうにも思っております。

ちょっと雑駁なことになりましたけれども、お聞きになりたいことはこういうことでよろしいでしょうか。

記者

はい。併せてなのですけれども、知事、今「案外、人が入っていた」とおっしゃっていましたが、やはり地震の影響か宿泊施設などは、キャンセルもだいぶ多かったというふうに、こちらのほうで、ちょっと耳には入ってきております。新幹線も4月2日かな、今のところは、山形新幹線としては全線復旧の見込みであります。例えば今後の経済対策とかですね、新たなお考えがあれば教えていただきたいのですが。

知事

はい。キャンセルもあったという、その情報も得ております。ようやくですね、全国のまん延防止等重点措置がすべて解除されて、さあいよいよ人の移動が始まる、旅行もですね、活発になるかと思いきや地震がありまして、その影響でキャンセルなどが発生したということで、福島県などでは、旅館さんが影響を、被害を受けたりですね、キャンセルばかりか被害もあったというようなことも映像で承知をしております。県内は地震の被害と

まではあまり聞いていないところでもありますけれども、キャンセルはあったというふうに聞いております。

県内は案外、被害が落ち着いているところで、これからキャンペーンというようなことは、非常に希望を持っておられるということを知っておりますので、やはりそういった、観光キャンペーンというようなことを早く行っていきたいというふうに思っています。

「冬旅」がですね、3月末まで延長となりましたけれども、4月1日からは、まだはっきりしておりません。名称だけは、もしできる時は「春旅」ということにしようというようなことは内部で話し合っておりますけれども、観光庁と言いますか、政府のほうからまだそういった正式な通知がないものですから、4月からどうするということはなかなか言えないでいるところでもあります。ブロック別に県境を越えての宿泊といったことも可能にしたいというような、確か首相がおっしゃったかと思うのですが、観光業界は大変期待をしております。私もそれを聞かれるのですけれども、そと隣県の知事に、「ぜひそうなたら、一緒に県民割やりましょう」というようなこともね、申し上げたりしております。村井知事あたりは、「お互いによろしく」というようなお返事をいただいておりますけれども、ただそもそも政府からの、4月からキャンペーンできるというようなお話がきておりませんので、公表できないというのが今の状況であります。

やはり、4月からの、東北南3県の観光キャンペーンもありますし、しっかりと経済再生、経済回復に向けてできる限りのことをしていきたいというふうに思っているところです。

記者

すいません、山形新聞、田中です。

今の地震の関係で一つ教えていただければと思うのですが、電力供給の問題です。昨日、東京電力管内、そして東北電力管内ですね、電力需給がひっ迫するという状況にありました。東京電力は今日も引き続きというような状況だと。

県として、昨日県の公式Twitterにですね、県民への節電の呼びかけであるとか、あとは県の企業局に対して東北電力からの発電の増量の要請があったりとか、そういった動きもありますけれども、山形県として電力対策ですね、改めてと言うかですね、さらに何か県民に対して働きかけをしていくとかですね、県として何か取り組まれるものがもしあれば、教えていただければと思います。

知事

はい。東京電力管内では、本当に警報が出るくらいのひっ迫状況ということは承知をしております。ほかの電力会社からも東京電力に対して融通をしているということも報道されております。私達が住んでいるこの東北は、東北電力管内ということになりますけれども、東北電力管内では、日常生活に差し支えない程度で節電をお願いするというような内容だったと思いますし、それについてはやはり、その通りでよろしいのではないかと思います。

ております。やはり、地震の被害に遭われた方々が大変な寒い思いもされている、また水がまだ通っていない、そういう思いをされている方々もありますし、さらに輪をかけて不自由な思いをさせるといようなことは、やはりあまりですね、好ましくないというふうに思っております。

東北はまだ寒いです。昨日も今日も寒いので、やはり東北の住民の皆さんがですね、風邪などひかれないように、温かい環境で生活できることを私は願っております。ですから、日常生活に差し障りのない程度で節電をしていただければというふうに思っております。

個人的なことで言えば、できる限りということでコンセントをですね、待機電力も消費するというようなことでありますので、充電するために入れっぱなしだったコンセントを抜いたりとかですね、私自身もそのようなことを二つほどやったり、あと自宅で使っていない部屋の暖房を消したりとか、あと後援会事務所でも天井の照明をできれば半分にしてくれというふうなことを言ったりですね、本当にできるところから少しやりました。

ということで、あまり健康を害さないような程度で私は皆さんに節電の協力をしたらいいんじゃないかなというふうに思っております。

#### 記者

お疲れ様です。朝日新聞の鷺田と申します。

まず2月定例会で、新年度予算のところ果樹に関する情報館の部分が議会の反対というか同意を得られない見込みになったというところで撤回したと思います。

改めてこの果樹情報館というのですかね、これをなぜ設置したいと思ったのか、これはどのような提案があって知事が実際に予算に盛り込んだのか、去年の知事選の公約にもですね、果樹の情報発信に関するところと一部記載があって、これは知事の公約でもあり知事の思いも込められたものかなと思うのですけれども、改めて教えてください。

#### 知事

はい。果樹王国情報発信の拠点施設という名称だったと思いますけど、この整備に関しましては議会におけるご意見を真摯に受け止め、説明不足というふうなお話があったと思います、それを真摯に受け止めてこれに関する予算を取り下げたところでございます。

一方でですね、さくらんぼを始め、県産果物の情報を県内外に発信していく拠点施設の重要性につきましては、令和2年に有識者の方々からのご提言もいただいております。また、JAや観光業界等からのご要望もいただいております。大変重要だというふうに私は思っているところでございます。

今後の進め方につきましては、改めて検討し、さらに様々な方々からのご意見もお聞きしながら丁寧に進めてまいりたいと考えているところです。



記者

そもそも25億円もかかる、その「ハコモノ」がどうなのかという意見は議員の多くから聞かれたんですけども、この果樹に関する情報発信において、こういった建物、いわゆる「ハコモノ」というものは知事は必要だというふうに現時点でお考えでしょうか。

知事

はい。

記者

お考えですか。その理由も含めて教えてください。

知事

先ほどから申し上げておりますその繰り返しになりますけれども、有識者の方々からのご提言もありましたし、JA、要するに農業界ですね、それから観光業界からのご要望もございました。これは本当に山形の強みになるというふうに思っておりますので、丁寧にご説明をしながら、仕切り直しということで、ご説明を申し上げていきたいというふうに思っています。

記者

要は建物というのを前提にこれからも議論をしていきたいというお考えなのでしょうか。

知事

そうですね。PRとかですね、即応的なところはもちろん必要でありますし、やってきております。私も帽子を被ったりもしましたけれども、ただ、年中被っているわけにもいきませんし、やはり、今申し上げることかどうかわかりませんが、山形県というと県外の方から見たら「さくらんぼ県」なんですね。山形といえばさくらんぼ、さくらんぼといえば山形というのはもう本当に全国どこへ行っても、それだけ私は実感をしてきました。それで山形のイメージは非常にさくらんぼが強いですね。

ところがさくらんぼというのは2週間ぐらいしか、生産の時期が非常に短いということがあります。そのうちに「つや姫」というブランドもできまして、つや姫は一年中あるのでございますけども、まだ全国的につや姫といえば山形、山形といえばつや姫までは行っていないという状況かと思っています。

あと本当にスイカですとかメロンですとか、おいしい果物はたくさん作っている、それもなかなか知られていないんですけども、知ってる人はもう非常に知ってまして、10年前と比べると、山形といえば昔は「田舎」というイメージだったのが「おいしいものをたくさん生産している県だね」というふうに変わってきているというふうに東京の女性の方々

からも伺っております。やはりフルーツ生産県の山形だということですからしっかりと一年中ですね、情報発信できる、観光でも来ていただける、あと研修でも来ていただける、研修で山形に来て文翔館くらいしか行くところがないんだというような声もあったりですね、出羽三山はちょっと遠いとかですね、いろいろな意見もたくさんあって、それで有識者の皆様方に検討していただいて、やっぱりそういった建物で常時発信をするという、また人も呼び込むというようなことで、これはむしろ観光のほうに資するのかなというふうにも思っております。

そうやってPRし、また観光に来ていただいて山形県の「果樹王国なんだ」というようなことをですね、知っていただく、そのことがですね、回り回って生産者の方々にも私はやはり恩恵は行くというふうに思っていますので、こういったことをですね、もっともっといろいろと丁寧にご説明を議会に対してしていく必要があるんだというふうに思っています。

農業という視点からじゃなくてやはり観光とかですね、いろいろな視点からもご説明を申し上げなければいけないんだなというふうに思ったところであります。

#### 記者

わかりました。今も説明というところでありまして、最初、冒頭のところでも説明不足があったというふうに知事もおっしゃっていましたが、昨年の知事選以降ですね、副知事人事が否決されたりだとか、また今回も議会で否決ではないですけども同意を得られる見込みがなかったとして撤回をするということがありました。

一方で政務活動費のところになると、知事は、ちょっと県民からすると議会の対応はどうなんだろうと思うところで、知事は議長ですね、判断を尊重する、議会の判断を尊重するというような発言もあって対応を取られたと思います。

改めて、知事にとってこの議会との関係性だったり、二元代表制なので向こうももう一方の代表だと思うのですけども、知事にとって議会とはどういった存在なのか改めてお伺いします。

#### 知事

はい。本当にね、知事選があって、それでその後の副知事の人事案否決というようなことがあってね、そこまでは本当に私も大変でありました。

ですが、やはり執行部と県議会というのは県政の両輪と言われておりますので、私は議会をしっかりと尊重していかなければいけないというふうに思っております。

そういうことで政務活動費についても議会の対応ということを尊重いたしましたし、今回の、今記者さんから質問がありました果樹王国の拠点施設につきましても、説明不足というようなことをですね、真摯に受け止めて一旦取り下げをさせていただきました。

しっかりと議会を尊重しながら、ですが、やはり山形県にとって県勢発展、県民の幸せ

にとってこういったことが大切なんですというようなことをしっかりとご説明申し上げながら、ご理解をいただけるように全力で取り組んでいきたいというふうに思っています。

記者

わかりました。最後に、先週まだ検討中だったと思うんですけども、若松さんの個人の来年度以降の去就について教えてください。

知事

個人のということでは、ちょっとまだ個人とも話しておりませんので、個人の去就は申し上げられないんです。

そして新しい体制を考えたいということを申し上げました。まさに今も検討中であります。ちょっとピッチを上げなければいけないなと思っておりますけども、今新しい体制を検討中でございます。

記者

いつ頃までに決まりそうなんですか。

知事

そうですね、やっぱり今年度中には決めないといけないというふうに思います。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

時事通信の村上です。

先ほどの情報発信拠点施設についての関連で、立地についてお伺いしたかったんですけども、今回提示されたのは寒河江ということで、情報発信という目的から考えるとですね、例えば首都圏に作るであるとか、あとは玄関口である空港のそば、山形駅のそばであったりと、いろいろ候補地はあるかと思うんですけども、その中でも寒河江、先ほど出羽三山がちょっと遠いというようなお話もあったかなと思うんですけども、そういった玄関口からすると寒河江も少し遠いのかなというような気もするんですが、なぜあの場所が候補地として決まったのかお伺いできればと思います。

知事

はい。やっぱり一番の肝はですね、山形県の園芸研究所に近いということです。園芸研究所がですね、やはり本県の、言ってしまうと企業秘密と言いますか、知的財産がたくさん

んあるそういう場所だというふうに思っております。

ですから、例えば研修とか観光とかで来て、前は園芸試験場と言ってたんですけどね、「園芸試験場に行きたいんだけど」ということをよく言われましたけれど、「あそこは申し訳ないけどそんなに簡単に入れられるところではございません」ということでお断りをしてきました。

ですから、あそのノウハウといったものをですね、しっかり展示できるようなところはやはり展示したいというふうに思っています。園芸研究所の近場というのが一つは大きなところであります。さくらんぼにせよ、スイカ、メロン、桃やりんごにせよ、様々な果樹、山形県で生産している果樹のですね、そういったことの情報が一番あるところでありますので、そこの近場でしっかりと情報発信できるということが大事ななということである場所にしたわけです。それが一番のポイントになります。

記者

逆に言うと、それ以外に何かポイントというのは。

知事

それ以外は、議会で確か関係部長が説明していたと思うんですけど、4点ぐらいあったかなと思うんですけど、例えば県内で一番真ん中に近いということで、クルーズ船がね、酒田港に入ってきた時に、さくらんぼ狩りに行きたいという方々が、グループがあつて、もう時間が限られているわけですね。限られた時間の中で移動できるところが寒河江だったんです。寒河江にさくらんぼ狩りに来たというようなことも聞いておりました。

そういった海、クルーズ船からの距離というようなこともあり、また、高速道路で降りてすぐのところでもありますから、最も便利なところと、県内から、また県外から来ても来やすいところというようなところでもあります。

私もあの場所（最上川ふるさと公園）というのは最初の頃非常に驚いたことがあったんですけども、たくさんの人ばかりがあつて、スーパーカーが全国から集まっていたんですね。「なんで寒河江に」と最初の頃思いました。そしたらやっぱり全国から高速道路で集まりやすいところだったというようなことで、そういう場所だったのかというふうに思ったところです。

案外、あそこ（最上川ふるさと公園）でいろいろな催しがあるようにも聞いておりますので、交通の利便性というようなことから、あそこということにしたということを確認理由として、根拠として挙げていたように思います。

記者

ありがとうございます。